夏季研修レポート(住用コース)

〈実習 1 日目〉

実習初日は県立大島病院の総合診療内科の見学だった。午前中は再診外来と初診外来を見学させていただいた。その見学を通して、医師は診察において正確性のみならず効率性が求められており、電子カルテへの記載などの事務処理も膨大であることがわかった。また県立大島病院では、その医師の事務処理の軽減を目的にクラークを導入していた。午後は、自治医科大学卒業で初期研修 1 年目の医師と病棟をまわったり、採血の方法について学んだりすることができ、医療現場の実情をより深く知ることができた。

〈実習 2 日目〉

実習 2 日目と 3 日目は住用診療所での実習であった。住用診療所は市役所と隣接しており、1 日に 30〜50 人の患者が来院する無床診療所である。診療所には、医師 1 名、看護師 2 名、看護助手 1 名、事務 1 名の計 5 名のスタッフが勤務している。所長の野崎先生は楽しく継続できる医療を追求されていて、電子カルテや音声入力システムの導入などを行なっている。診療所では、三次救急医療機関である県立大島病院の負担軽減のため、出来るだけ地域で出来る医療は診療所で提供するように心がけているそうだ。

〈実習 3 日目〉

3 日目には、初めて患者さんの血圧測定を行う機会をいただいた。上手く動脈を見つけるのが難しかったり、自分の脈と患者さんの脈を混同してしまったりしてとても大変だったが、モチベーションの向上につながった。他にも、診療の合間に胃カメラの操作方法を教えていただき、患者さんの負担軽減を目的とした作業時間短縮のために全て左手で機器を操作する技術の高さに圧倒された。訪問診療では、実際に患者さんの自宅を訪ねて生活状況を把握することにより、患者さんに適した医療を提供できるのだということを学んだ。

俳句: 故郷で　医の道歩む 道しるべ

背景:　僕は自分の故郷の奄美に帰って来て医療に従事することが今現在の目標なのですが、野崎先生のもとでその将来像をより明確にイメージすることができ、自分の将来への道しるべが見えて来た気がするのでこの俳句を作りました。